

NEWS GOPE

インターネット・ニュースの見方

eye 1

Worldwide Analyst Conference開催

サン・マイクロシステムズがJiniを披露

サン・マイクロシステムズは米国サンフランシスコ市で開催したWorldwide Analyst Conferenceで1月26日「Jini」を正式に発表し、Jiniのライセンスを取得したベンダー37社の発表と、Jiniが実装されたいくつかの機器のデモンストレーションを行った。

本誌編集長：中島由弘

多様なデジタル機器をつなぐJini

Jiniはパーソナルコンピュータをはじめ、プリンター、ハードディスクドライブ、デジタルカメラ、携帯情報端末（PDA）など、私たちの身の周りにあるさまざまなデジタル機器を、ネットワークに接続するだけで簡単に

機器間通信できるようにする、Javaの分散オブジェクトを核とした応用技術。将来的にはイーサネットや電話回線だけではなく、電源のACライン（コンセント）をコンピュータネットワークに使った技術が実用化されれば、家電製品をACラインに差し込むだけ

でネットワークに接続できるようになる。

あらかじめそれぞれのデジタル機器にJavaのバーチャルマシン（VM）とその機器を動かすのに必要なプログラムコードを埋め込んでおき、その機器にネットワークケーブルが差し込まれると、自らの機器特性情報やプログラムコードをネットワ

ーク上の「ルックアップサーバー」に登録し、その機器にアクセスしたい機器は「ルックアップサーバー」を介して相手の機器特性情報やプログラムコードを得る。そのあとはサーバーを介さずに機器同士が直接JavaのRMI（Remote Method Invocation）を使って通信をする。つまりJavaプログラムからそれぞれの機器はオブジェクトとして扱えるようになる。

これまでは、ほかの機器を動かすためにはデバイスドライバーなどのソフトウェアをクライアントのコンピューターにインストールしておかなければならなかったが、そうした手間を省いて容易にネットワークから利用できるようになる。

たとえばJiniを組み込んだデジタルカメラを使えば、自宅で撮影した画像を最寄りのKinko'sのようなビジネスコンビニで出力して受け取れたり、PDAを使って空港で航空会社のコンピューターにアクセスできたり、遠隔地にある機器について調べたりと、そのデバイスドライバーをあらかじめインストールしておかなくても、どこでも簡単にさまざまなサービスを利用できる。

PC互換機やマッキントッシュなどのパーソナルコンピュータやワークステーションなどの「コンピュータ」はプロセッサごとにハードウェアのアーキテクチャーが限定されているが、多くのデジタル機器のプロセッサ



Worldwide Analyst Conferenceの一場面

一やハードウェアのアーキテクチャーは多種多様だ。Javaを使うことでベンダーは組み込みソフトウェアやデバイスドライバーの開発が容易になり、利用者は機器をネットワーク上で探し出したり、接続したりすることが容易になる。

「WebTone」のコンセプト

Javaの開発責任者であるサン・マイクロシステムズ副社長のビル・ジョイ氏は「電話網は複雑であるにも関わらず電話機をつなぐだけでダイアルトーンが返ってくる。しかし、コンピュータネットワークではそのようなわけにいかなかった。Jiniを使えばとも簡単にネットワークに機器をネットワークに接続できる。これが『WebTone』というコンセプトだ」という。そしてビル・ジョイ氏はJiniを組み込んだシャープの電子手帳「Zaurus」や3Com Palm Computingの人気PDA「PalmPilot」を使ってデモンストレーションした。

HAVi、UPnPとの関係

また、ソニーなどの家電機器メーカーが先に発表したオーディオ機器を接続する規格「HAVi」との相互接続*1についても、「ローカルエリアのHAVi」と「ワイドエリアのJini」という関係でお互いを補完しながらブリッジ接続できると期待を表した。つまりこの相互



サン・マイクロシステムズ副社長のビル・ジョイ氏

インターネット・ニュースの見方

接続によって、遠隔地から家庭のオーディオ機器などをコントロールすることができるようになるというわけだ。

Jiniは昨年からの構想が発表されてきた。一方で本年1月の始めには米国ラスベガスで開催されたCES (Consumer Electronics Show) において、マイクロソフトはウィンドウズベースのネットワーク・プラグアンドプレイである「ユニバーサル・プラグアンドプレイ」(UPnP)*2を発表した。この違いについて記者団から質問されたサン・マイクロシステムズの幹部は「Jiniはハードウェアのアーキテクチャーに依存しないJavaの応用技術なので、PCとその周辺機器だけではなく、さまざまなアーキテクチャーの機器に適用できる」、「すでに37社のベンダーが契約したことの説得力」といった点が大きな違いであると強調した。

Jiniがもたらすコミュニティー

37社とのベンダー契約について、Jiniでは「コミュニティー」をキーワードとして重視している。そもそもネットワークにつながる多くの機器やその上で動くサービスが「コミュニティー」であると同時に、Jiniのライセンス (パートナー) には「Community Source License」(CSL)*3という方法で、非営利目的の場合は無償でソースコードを公開する。その成果は「コミュニティー」全員で共有するというもので、いまのトレンドである「オープンソース」を探り入れた形となっている。

なお、Jiniを実装したさまざまな機器が製品として市場に発売されるのは2000年後半から2001年の前半であるとしている。

なお、発表されたライセンス先は以下のとおり。(アルファベット順)



Jiniによってさまざまな機器がネットワークに簡単につながる

Adaptive Networks、America Online、Axis Communications、BEA System、Bosch Siemens、Bull、キヤノン、Cisco Systems、Computer Associates、Creative Design Solution、Dallas Semiconductor、Echelon、Encanto、Ericsson、船井電機、IBM、Inprise、Kinkos、Kodak、Metroworks、Motorola、Novell、Nokia、沖電気、Philips、Phoenix Technologies、Quantum、Samsung、Seagate、セイコーエプソン、シャープ、ソニー、Symbian、3Com Palm Computing、Tatung、東芝、Xerox

*1 「HAVi」との相互接続

サン・マイクロシステムズの「Jini」とソニー、Philipsなどの大手家電メーカーが推奨する「HAVi」(Home Audio-Video interoperability)の相互接続。上記3社がこれを実現するための技術を共同で開発していくという意向を1月19日に発表している。なお、「HAVi」はIEEE1394をインターフェイスとして持つ複数の異なるAV機器などをそれぞれ認識させて、データ交換やさまざまなオペレーションを可能にするために用いる技術。日立製作所、松下電器、シャープ、ソニー、東芝など大手家電メーカー8社が提唱している。

*2 ユニバーサル・プラグアンドプレイ (UPnP)

米マイクロソフトがパソコンやプリンター、家電などの各種のデバイスをネットワークに接続して、ほかのデバイスと相互運用できるようにするもの。Jiniに対抗する技術と考えられている。この技術はTCP/IPやXMLなどをベースとし、あらゆる無線と有線のネットワークに対応するとしている。

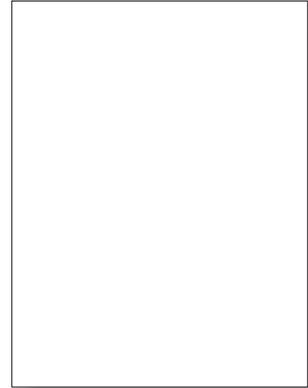
*3 Community Source License (CSL)

サン・マイクロシステムズが規定した契約内容。これにより、誰でも無料でソースコードを閲覧できる。また、ソースコードの変更も認められているが、製品化をする場合には同社が実施する互換テストに合格しなければならず、製品に互換ステッカーを貼り、その代金を支払う。

グループウェアからナレッジマネジメント環境へ ロータスフィア 99 開催

米ロータスディベロップメントは、1月18日から22日までフロリダ州オーランドにおいて、開発者やパートナーからなる1万人の参加者を集めて「ロータスフィア99」を開催し、長らく待たれていたノートとドミノの最新版「R5」を2月に出荷すると発表した。また、LinuxのサポートやAOLとの提携を公表し、ナレッジマネジメントを中核に据えた同社の戦略を明らかにした。

編集部



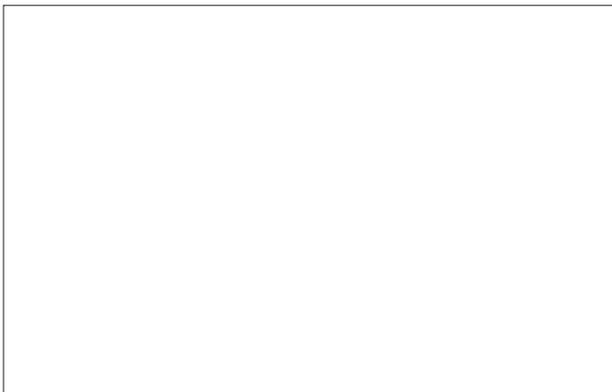
オープニングセッションで講演するロータスCEOジェフ・バボウス氏

「R5」ついに登場

2年前のロータスフィアで発表され、98年年内に出荷される予定だったノートとドミノの最新版は、今回「R5」という名で99年2月に出荷されることが正式に発表された。日本語版の出荷は3月の予定だ。R5は、クライアントのノートR5、サーバーのドミノR5（旧バージョンではノートドミノと呼ばれていた製品）、開発環境のドミノデザイナーR5の3製品からなる。ロータスフィアの会場では、75社以上のビジネスパートナーがすでに「R5」に対応済みの製品を出展した。会場には、「R5」のロゴが大きく掲げられ、これまでのノートとドミノの単なるバージョンアップではなく、まるでまったく新しい製品のブランド名だとの印象を与えようとしているかのようにだった。ロータスは「R5」のキャンペーンに過去最高の広告費を注ぎ込むことを明らかにしている。

グループウェア市場を争う ロータスとマイクロソフト

オープニングセッションの講演でロータスのCEOジェフ・バボウス氏は、98年を振り返ったあとでマイクロソフトとのグループウェア市場での競争について語り、「エクステンジがノートドミノを打ち負かした」というマイクロソフトの宣言に対して、ノートドミノが98年に新たに1,400万シート（第4半期だけで新たに500万）を獲得し、累計で3,400万シートを達成したと発表して、ノートドミノが高成長を続けていることを強調した。バボウス氏はさらに「世界の大きな自動車メーカー12社のうち10社と、アメリカの主要な銀行のすべてが採用している」と実績を並べ、同社が依然としてグループウェア市場のリーダーであるとの自信を示した。R5がこの勢いをさらに加速できるか、真価を問われるのはこれからだ。



展示会「プロダクトショーケース」には、約200社が出展した

ロータスもLinuxをサポート

また、講演中にバボウス氏はドミノのLinux版を99年中に出荷することを明らかにし、聴衆の喝采を浴びた。とはいえ、ロータスがLinuxを掲げて「反マイクロソフト」の立場を鮮明にしたということではない。ロータスはこれまでLinuxのサポートについては否定的であった。ノートR5がプラットフォームとするOSはウィンドウズが中心であり、ドミノR5にはIISとの連携機能が新たに追加された。Linuxのサポートは、顧客からの要望が無視できないほど多くなったためだと思われる。ノートドミノを採用している企業にもLinuxが着実に浸透していることがこの背景にある。

AOLとの提携でノートに ポータルサイトを組み込む

講演中、ネットスケープ買収で脚光を浴びるAOLとの提携も発表された。ノートR5のヘッドライン画面（後述）にAOLのポータルページを表示させ、これによりパーソナライズされたニュース記事や株価情報、天気予報などを購読したり、AOLの検索エンジンを使ってノート上から検索したりできるようになる。昨年から盛り上がりを見せているポータルサイトの動きにロータスも関わりを持つことになったのは興味深い。

ヘッドラインで 情報管理ができるノーツR5

それでは、実際にノーツR5とドミノR5を紹介しよう。ノーツR5にはウェブを見る機能が組み込まれているだけでなく、インターフェイスにもWWWブラウザのアイデアが借用され、画面上部の「ナビゲーションバー」には「戻る」ボタンや「進む」ボタンがある。左側に縦に置かれた「ブックマーク」と呼ばれるバーのボタンを押すと、メールやカレンダーの画面を直接呼び出したり、ウェブページを表示したりできる。

新しく作られた「ヘッドライン」画面では、メールや予定のリストとウェブページを一度に眺められる。マイクロソフトのアウトLOOK98の「Outlook Today」にあたる機能だ。

ノーツR5は標準的なインターネットメールクライアント+WWWブラウザとして利用でき、必ずしもサーバーにはドミノR5を必要としない。プロバイダーにダイヤルアップしているユーザーも使うことができる。モバイル環境での利用も考えられているようだ。

ウィンドウズ95、98、NT、マッキントッシュ（Power PC）の各プラットフォーム

インターネット・ニュースの見方

ムに対応する予定。

ウェブアプリケーションサーバー となるドミノR5

ロータスはノーツドミノ4.6からインターネット標準プロトコルの多くに対応し始めたが、ドミノR5ではさらにその傾向が進み、もはや単なるグループウェアのためのサーバーとは呼べないものになっている。SMTP、POP3、IMAP4、MIME、S/MIME、SSL、LDAP、HTTP、NNTPといったインターネット標準のプロトコルをサポートし、サーバーの機能をCORBA/IIOPを経由してJavaから呼び出せる。

また、スケラビリティや安定性も強化され、データベースのサイズは無制限となり、64ギガバイトまでが保証されている。

これらの結果、ドミノR5はウェブアプリケーションサーバーとしての性格を一層強めた。クライアントにはノーツR5と並んで、ごく普通のWWWブラウザの使用も想定されている。ドミノR5とノーツR5は、グループウェアに特化した製品から、

汎用的なインターネット製品へ完全に転換したと言える。

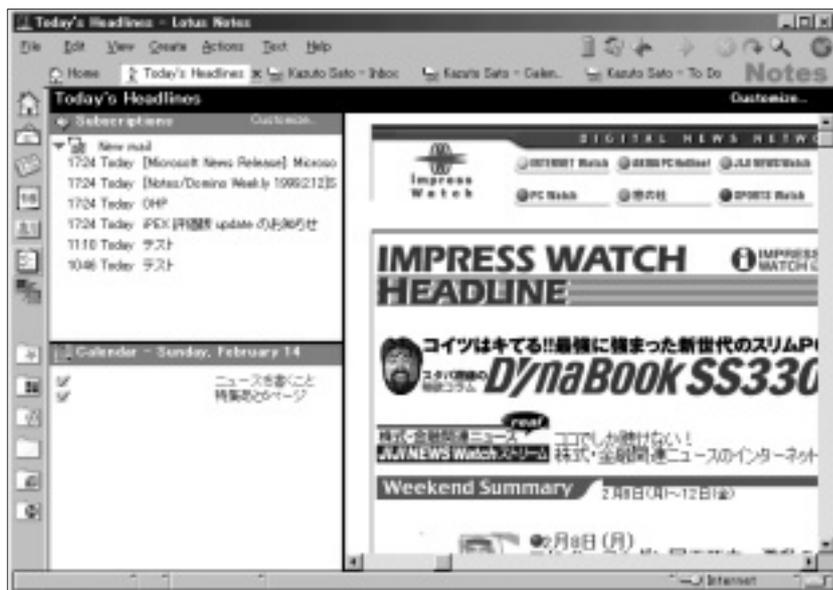
ドミノR5はウィンドウズNT、AIX、HP-UX、Sun Solaris、IBM AS/400など幅広いプラットフォームをサポートする。また、製品の形態は、用途の規模によりドミノメールサーバー、ドミノアプリケーションサーバー、ドミノエンタープライズサーバーの3つが用意されている。

キーワードは 「ナレッジマネジメント」

ロータスフィア99のキーワードとなった言葉が「ナレッジマネジメント」だ。併設された展示会場では、このキーワードを象徴する「気」、「会」、「真」、「知」という漢字が壁に投影されていた。ロータスは、ナレッジマネジメントを「組織的な革新、感応性、生産性、能力を進歩させるために情報と専門知識を系統的に利用すること」と定義している。たとえば、ある人が文書を使った作業中に「この分野の専門家はだれか」をネットワーク上でリストアップし、その人と即座にコンタクトできるような新しいコラボレーション環境が想定されている。

リアルタイムメッセージング製品「セイムタイム」や遠隔地からの教育やトレーニングを実現する「ラーニングスペース」がナレッジマネジメント環境の中核になる。すでに出荷済みのセイムタイムは今後ノーツに組み込まれる。オープニングセッションのデモでは、検索の結果表示された文書を見ながらノーツの中にチャット画面を表示させ、その文書の内容についてチャットで質問する手順が実演された。

これまでのメールやスケジューリングからなるコラボレーション機能に加えて、こうしたリアルタイムメッセージングや検索機能でナレッジマネジメント環境を強化することによって競合製品との差別化を図るのがロータスの戦略だ。また、ロータスは99年中にナレッジマネジメントサーバー「ヨーダ」(コード名)を出荷すると発表した。



ノーツR5のヘッドライン。メール、仕事のリスト、ウェブページを一度に見ることができる

インターネット時代のCPU インテルがIDを埋め込んだ ペンティアムIIIを発表

インテルが米国で2月26日に出荷すると発表した最新CPU「Pentium III」は、「ストリーミングSIMD拡張命令セット」や「プロセッサ・シリアル・ナンバー」など、インターネットを意識した新技術が搭載されている。だが、この新技術「プロセッサ・シリアル・ナンバー」が波紋を投げかけている。

編集部

インターネット時代のCPU登場!

インテルの最新CPU「Pentium III」にはインターネットを意識した新技術「ストリーミングSIMD拡張命令セット」と「プロセッサ・シリアル・ナンバー」が搭載されている。

ストリーミングSIMD拡張命令セットはこれまでコードネームでKNI(Katmai New Instructions)と呼ばれていたもので、これは従来のMMXが整数演算の複数同時実行命令だったのに対して、浮動小数点演算も複数同時実行するというものだ。この新しい命令セットにより、ポリゴンに利用するジオメトリ演算が高速に実行できるため、VRMLが高速に動作したり、ビデオ符号化の高速化によりストリーミングビデオのフレームレートが向上したりする。この新しい命令セットによりインターネットでのマルチメディアがさらに面白いものとなること。

「プロセッサ・シリアル・ナンバー」の功罪

Pentium IIIに搭載されるもう1つの新技術がプロセッサ・シリアル・ナンバーだ。これはCPUに96ビットの個別のシリアルナンバーを組み込むというもので、この個別のシリアルナンバーはPentium IIIに搭載される新しい命令セットを利用することでインターネットを通じて外部から参照できること。

このプロセッサ・シリアル・ナンバーの利用によってさまざまな利点が考えられ

る。たとえば、インターネットでショッピングをする場合に、ショップ側にシリアルナンバーを登録しておくことで、実際にショッピングをしているのが本人であると簡単に認証できる。また、各種のコンテンツサービスの認証などもパスワードではなく、このシリアルナンバーで行えばパスワードを入力する手間が省けるだろう。このほか、インターネットを介してファイルなどを送る際に、そのシリアルナンバーを利用してファイルを暗号化するなど、インターネットを利用するうえでのセキュリティの向上も考えられる。

また、CPU内部にシリアルナンバーを付ければ、「リマーク品」と呼ばれる、CPUのクロック周波数を偽って販売する業者を一掃できるという利点もある。リマーク品というのは、たとえばインテルが動作周波数300MHzとして出荷しているCPUのマーク部分を改竄し、400MHzと書き換えて市場に卸すような偽商品のことを言う。CPUの違いを外見から判断するには動作周波数のマーク以外に確認する方法がないため、このような商品が存在してしまう。

CPUはメーカー側が動作マージンを見込んで製品を出荷しているため、300MHzの商品を400MHzで動作させても動いてしまうことがある。しかし、これはCPUに無理な動作をさせているために故障することもあり、購入者側に不利益が生じる。シリアルナンバーが付いていれば、購入者はインテルの製品データベースにアクセスして、そ

のCPUが元々どのクロック周波数で出荷されたものかを確認でき、リマーク品かどうかを簡単に確認できるわけだ。

以上のようにプロセッサ・シリアル・ナンバーは正しく利用すれば非常に便利なものだ。しかし、ウェブサイト運営する側がシリアルナンバーで個人を特定することで、あるユーザーがいつ、どのようなページにアクセスしたかなどの情報を常に監視できるようにもなる。場合によっては、ユーザーのプライバシーが侵される可能性もありえるわけだ。そのため、米国のプライバシー擁護団体を中心にこの機能に反対する運動が起こっている。

出荷時は「無効」に変更

現在、インターネットのさまざまなメディアでは出荷時のプロセッサ・シリアル・ナンバーを無効にするべきか有効にするべきかが盛んに議論されている。当初、インテルではプロセッサ・シリアル・ナンバーを初期状態では「有効」の状態では出荷するとしており、これを無効にするにはユーザーがインテル社のウェブサイトなどから無償で提供されるソフトウェアを使い、自分で操作する必要があると説明していた。しかし、このような反対運動を受け、インテルではプロセッサ・シリアル・ナンバーの初期状態を無効とすると発表した。

以上のように、プロセッサ・シリアル・ナンバーの功罪についてはさまざまな議論もあり、どうするべきかはまだ決着が付いていない。インターネットユーザーとしては今後の動きに注目したいところである。



インテルPentium IIIプロセッサ紹介ページ
<http://www.intel.com/jp/home/pentiumiii/>

企業情報システム / ネットワーク最新ソリューション展 NET&COM '99開催

今年7回目を数えるビジネスユーザーのための情報システム / ネットワークソリューション展「NET&COM '99」が、2月3日から5日まで、日本コンベンションセンター（千葉・幕張メッセ）で開催された。「未来への突破口はここにある」をテーマに、企業の情報システム管理者や構築に関わる技術者に向けたさまざまな最新ネットワーク製品が軒を連ね、各ブースで熱心に説明を受ける来場者が多く見られた。編集部

注目は「ネットワーク最前線」

場内はネットワークゾーン、コンピュータゾーン、そして特別出展のCTI Parkで構成され、各ゾーンでは出展企業による最新の製品情報やソリューション提案を行うシアターが催された。

なかでも注目を浴びていたのは、昨年同様「ネットワーク最前線」コーナー。ここでは最新のネットワーク技術やインターネットの利用環境が展示された。家庭でインターネットを利用する場合のインフラの提案としてADSLとCATVインターネットが出展されたほか、企業向けにウェブの高速アクセス環境を実現するキャッシュサーバーなどが紹介された。

ADSLは最新標準技術の「G.992.2（G.lite）」に対応するモデムを使ったインターネット環境を場内で実現。この技術はTU-T（国際電気通信連合電気通信標準化部門）で6月に勧告が予定されている。銅線を使うため、既存の宅内配線を利用できるADSLは、容易に導入できる点が評価されている。



ソネットのADSLモデム「x200 Lite」

伝送速度は電話局から家庭（下り）へは最大1.5Mbps、上りは最大512Kbpsと高速な接続サービスが期待される。なお、ADSLモデムはソネット「x200 Lite」（米アウェア製）や、NTTインターナショナル「Fast Internet」（イスラエル オーキット・コミュニケーションズ製）などが出展された。

一方、CATVインターネットに不可欠なケーブルモデムも展示した。最新仕様「DOCSIS 1.0」（Data Over Cable Service Interface Specification）に準拠した製品で、国内初のお目見えとなった。伝送速度は下りが最大42Mbps、上りが最大10Mbpsで、複数ユーザーでこの帯域を利用する。モトローラからはケーブルモデムの接続装置（CMTS）として動作する「Cable Router」などが出展された。

企業向けにはウェブ情報をオフィスで共有し、インターネットへのアクセスを速めるキャッシュサーバーや、これと組み合わせると最大限の高速化を望める負荷分散装置、レイヤー4スイッチなどが展示された。出展企業は伊藤忠サイエンス、住友電装など。



モトローラのケーブルモデム接続装置「Cable Router」



最新ネットワーク技術を展示するNET&COM '99会場

個人ユーザー向けの ECやGIS情報も

会期中、日経BP主催の「第2回ECグランプリ」の結果発表があった。これはECやウェブを利用したネットビジネスの発展を目的として行われたもので、応募総数は349件であったという。電子化したビジネスが浸透してきているが、まだその安全性が危惧されるEC（エレクトロニックコマース）セキュリティ関係のアプリケーションと併せて各所で紹介されていた。なお、グランプリは「JTB INFO CREW」が受賞。

このほか、GIS（地理情報システム）の最新サービスが体験でき、インターネットと連動した地図情報サービスや衛星を使った画像データ配信など、個人ユーザーでも楽しめるコーナーが設けられていた。

盛り上がりを見せるCTI市場

併設のCTI Park'99では、コンピュータと電話、LANとの連動システムが多数紹介され、音声やFAX、電子メールなどの送受信をすべてパソコン画面で操作、管理する「ユニファイドメッセージサービス」が、ここに来てやっと富士通や日通工などの日本のメーカーからも出展された。近年、CTIへの取り組みが活発化している日本市場だが、いまいち導入が進んでいなかった。このサービスの登場でマルチメディアの統合が一気に進むか、非常に楽しみなどころだ。

ほかにも、NTTのナンバーディスプレイサービスを活用した顧客管理システムなどが数多く見られた。

3日間で73,392人を動員した本イベント。年々電子化、高速化されるビジネスに有益なシステムを探るには恰好の機会となった。

Product インターネット機能がさらに充実

Dreamcast用 WebTV接続キット今春登場

ウェブ・ティービー・ネットワークスは、セガ・エンタープライゼスのDreamcastでWebTVのサービスを利用できるようにする「マイクロソフトウェブ・ティービー接続キット」を無償で提供すると発表した。Dreamcastは今後さらにインターネット対応のマルチメディア機としてその威力を発揮する。

編集部

「マイクロソフト・ウェブ・ティービー接続キット」は、テレビを利用したインターネット接続サービス「WebTV」をDreamcastで利用するもので、ソフトウェアは「GD-ROM」(Dreamcast専用メディア)で提供される。この接続キットは当面、Dreamcastに同梱されているハガキを返送したユーザーに無償で配付され、今後はDreamcast本体への同梱や、ゲーム雑誌への付録として提供することも検討しているという。サービス開始時期は3月末から4月初旬を予定している。

DreamcastにはAV入力端子やプリンタ

ーポート、マイク端子などが無いため、WebTV専用端末で利用できる音声を添付したメールを送信したり、ウェブページを印刷したりすることはできないが、そのほかの機能に関してはWebTV専用端末と同様に利用できる。なお、操作にはリモコンの代わりにDreamcastコントローラーを利用し、別売りのキーボードにも対応している。

また、ウェブ・ティービー・ネットワークスは、WebTV接続キットの提供と同時に、新たにDreamcastユーザー向けにゲーム情報番組の提供も開始する。ゲームソフトの売れ筋ランキングや、ゲームレビュー、

ゲームソフト発売スケジュールなどのほか、WebTVで楽しめるネットワークゲームやMIDIを利用したゲーム音楽などを提供する予定という。

利用料金は専用端末と同じく入会金は無料で、15時間まで2,000円、15時間を超える分については1分間5円となる(通信費は別途かかる)。



URL <http://www.webtv.co.jp/>

Service ワープロ文書や写真も送れる

郵政省がフルカラー対応版 ハイブリッドメールサービスの実験を実施

郵政省はインターネット経由でカラーのワープロ文書や写真などを郵便として送れる「ハイブリッドメールサービス」の1999年度中の開始を予定している。そして今回、2月8日から2月28日までの20日間、品質面の検証や評価をするためにモニター100名による実験を行った。

編集部

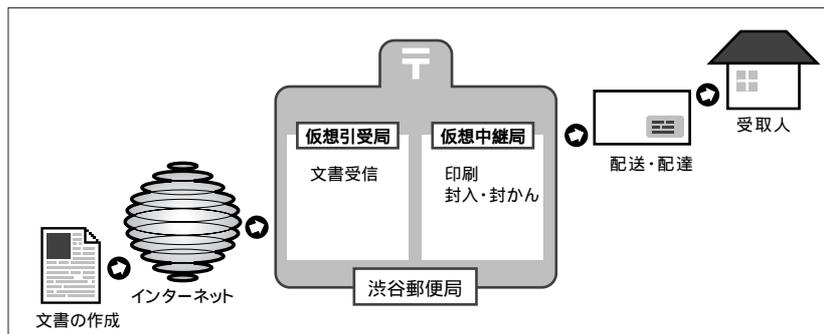
今回の実験では、応募のあった6284名の中から選定した個人60名、事業所40社の合わせて100名のモニターから実際に郵便を出してもらい、専用ソフトの操作性や作成された郵便物の品質などについて、実験期間終了後にアンケートおよびヒアリング調査を行う。

1997年に始まっている文字ベースの「ハイブリッドメールサービス」([URL http://www.furusato-tayori.or.jp/h-mail/](http://www.furusato-tayori.or.jp/h-mail/))との大きな違いは、フルカラーに対応していることとワープロソフトや表計算ソフトなどのデータやデジタルカメラで撮影した写

真などを添付して送れるということだ。用途としては地図や写真を貼付して結婚式の二次会のお知らせを送ったり、その季節に

合った写真を貼付して暑中お見舞いを送ったりといった利用法が考えられる。これにより、従来のサービスに比べて幅広い用途に利用できるだろう。

一方で、ファイルの添付による操作の複雑化やデータ容量の増加によるバックボーンへの負荷などの心配もあるとしている。これらの問題を今回のモニター実験によって洗い出し、サービス開始時には解決されていることを目指しているとのことだ。



今回の実験のイメージ図

Product 日本語チャンネルがついに登場

リアルプレーヤーG2 日本語版がリリース

リアルネットワークスのリアルプレーヤーG2が日本語化された。G2はSMIL対応やスマートアップデートなどこれまでのリアルプレーヤーとは大きく異なっている。また、日本語化に伴って日本語チャンネルも追加された。今後はチャンネルをはじめ、日本独自のコンテンツの充実が期待される。

編集部

昨年11月に英語版が発表されているリアルプレーヤーG2とリアルプレーヤープラスG2の日本語版（ウィンドウズ版）が2月16日にリリースされた。日本語版は英語版のバグが改善されたほか、メニューやヘルプ、エラーメッセージなどが日本語化されている。ただし、検索機能は英語版エキサイトのみに対応している。特筆すべき点は、日本語版には日本語チャンネルが初期状態で追加されたという点だ。

追加されたチャンネルは読売新聞、日経新聞、朝日新聞、日本テレビ、TBS、So-net、ソニーミュージック、W-Vision

の8社が提供する全9チャンネル。すべてのチャンネル、音楽、映像、テキスト、画像などを同期させる言語SMILに対応したコンテンツが配信される（サービス開始時は、読売新聞と日本テレビの提供するチャンネルについてはSMIL未対応）。今後、これら9チャンネル以外にも日本語チャンネルが追加される予定になっている。

リアルプレーヤーG2日本語版はリアルネットワークスのウェブサイトからダウンロードでき、有償のリアルプレーヤープラスG2日本語版

も同サイトからダウンロードできる。また、マッキントッシュ版についてはベータ版が近日中に公開される。

米国ではすでにG2対応のコンテンツが多数配信されている。一方日本では、今回の日本語版のリリースに合わせて、G2対応のコンテンツがチャンネルとして登場し、配信されることになった。

URL <http://www.jp.real.com/>



リアルプレーヤーG2日本語版。左側に日本語チャンネルが追加されている。表示はasahi.comの映画エンターテインメントチャンネル

Service 営業ツールを備えたECプラットフォームを実現

「ショッピングポータル」を目指す キュリオシティ

三井物産は1月15日、同社が運営する「キュリオシティ」のショッピングモールを大幅に刷新した。これまでキュリオシティが取り組んできたウェブメールやインスタントメッセージなどのサービスが、オンラインショップの分野で他社にない重要な役割を果たすことに注目したい。

編集部

キュリオシティでは、これまで無料のウェブメール（Curio Free Mail）やインスタントメッセージ（Curio Hotline）、ウェブ型スケジュール帳などのサービスを手掛けてきた。しかし、今後はオンラインショッピング機能を充実させることで「日本最大のショッピングポータルを目指す」（プロジェクトリーダーの西澤泰夫氏）という。

三井物産の全国の営業網を活かして出展者を発掘し、ホームページを持たない店舗には、月間1万円で同社のサーバーに店舗を開設できるサービスも提供する。1月27日現在で約300軒の店舗がオンラインシ

ョップを開設済みだが、このほかにもすでに約3000店からショップ開設の依頼がある。また、既存のオンラインショップも含む情報ページ「Curioショッピング探訪」には、約7000店の店舗情報がデータベース化されている。さらに2月末までには2万店の情報に拡充する予定だという。現在、決済方法はショップごとに異なり、三井物産で決済システムの提供は行っていない。

ほかのショッピングモールとの大きな違いは、ウェブメールやインスタントメッセージツールなどを提供していることで、ユーザーとのコミュニケーション手段が豊富な

点。なかでもウェブメールは約12万人の利用者があり、約2万人がアクティブユーザーだ。これらのサービスを利用しているユーザーを、ショッピングの顧客として引き込むことも大きな課題となっている。同社では、ウェブメールやインスタントメッセージなどをショッピングモールの営業ツールとしても活用し、特選品情報をユーザーに向けて配信するなどしてシナジー効果を発揮していくという。

また、ウェブメールやインスタントメッセージのユーザー情報をもとに、ユーザー属性に合致する商品を提供していけば、単なるオンラインショップの枠を超えたデータベースマーケティングの意味合いも持つことになる。その意味からも、今後のマーケティング戦略が、他社との差別化を図るうえでも非常に重要だと言えるだろう。

URL <http://www.curio-city.com/>

Product 35ミリカメラからの買い換え狙う
デジタルカメラが200万画素時代に突入

今春、200万画素を超えるCCDを搭載したデジタルカメラがメーカー各社から一斉に発売される。242ページで紹介したニコン「COOLPIX950」（3月25日発売）のほか、2月17日の時点ですでに、以下数社が4月末までの発売を発表している。

先陣を切るのは富士写真フィルムで、230万画素CCDを搭載した「FinePix2700」（94,800円）を3月4日に発売する。人気モデル「FinePix700」の筐体を維持しつつアルミ合金外装を採用したほか、新RISC-CPUで処理スピードが約5割アップした。

ソニーは211万画素CCDを搭載した

「Cyber-shot DSC-F55K」（115,000円）を4月1日に発売する。ドイツの名門「カールツァイス」社のレンズ「Distagon」の搭載、記憶媒体にメモリスティックを採用、MPEG動画と音声の記録が可能など、独自性の強いデジタルカメラとなっている。

オリンパス光学工業は211万画素CCDを搭載した「CAMEDIA C-2000ZOOM」（113,000円）を4月8日に発売する。F2.0の大口径3倍ズームレンズを搭載したほか、離れたところからでもレリーズやズーム操作が行えるリモコンが標準で付属されている。

リコーは230万画素CCDを搭載した

「RDC-5000」（価格未定）を今春に発売する予定。銀塩コンパクトカメラ型の筐体で幅広い購買層を狙う。USBに対応しているのも特徴だが（残念ながらiMacやPower Macintosh G3には対応していない）。

200万画素を超えるデジタルカメラの登場でプリント画質も格段に向上し、サービスサイズ程度の大きさなら銀塩カメラと同等かそれ以上の画質を期待できる。銀塩カメラからの買い換えも期待できるとあって、各社の200万画素機への力の入れようもそうとうなものだ。今後も高画質競争によるデジタルカメラの勢いは止まりそうもない。

写真左から

オリンパス光学工業「CAMEDIA C-2000ZOOM」

URL <http://www.olympus.co.jp/>

富士写真フィルム「FinePix2700」

URL <http://www.fujifilm.co.jp/>

ソニー「Cyber-shot DSC-F55K」

URL <http://www.sony.co.jp/SonyDrive-j.shtml>

リコー「RDC-5000」

URL <http://www.ricoh.co.jp/dc/>



Product NTT-TE東京が
MN128シリーズの新機種
4製品を発売

NTT-TE東京は、ダイヤルアップルーター「MN128-SOHO SL11」（49,800円）と、同機能でフレームリレー対応の「MN128-SOHO FR」（69,800円）低価格TA「MN128mini-V」（23,800円）を発売した。本体背面のコネクター部分と同色のケーブルが付属し、簡単に接続できる「そくピタ！ カラー配線」を採用。また、TAとPCを無線で接続するワイヤレスTAアダプター「MN128-WTA」（23,800円）も同時発売。

URL <http://www.te-tokyo.co.jp/>



USBポートを搭載したTA「MN128mini-V」

Product アクシスが
ファーストイーサネット対応
プリントサーバーを発売

アクシスは、新ASICチップのETRAX 100を搭載して高速パフォーマンスを実現した、ファーストイーサネット対応の3ポートプリントサーバー「AXIS 5600」を2月22日に発売した。業界最高水準の1Mバイト/秒のスループットとECP対応の高速双方向通信を実現したほか、WWWサーバーの内蔵によりWWWブラウザからプリントサーバーへ直接アクセスして、設定や管理が簡単にできる。価格は59,800円。

URL <http://www.axiscom.co.jp/>



MacOS（PostScriptプリンター）にも対応

Product 関西電機が
インターネットに対応した
プリントサーバーを発売

関西電機は、プリンターポートに直接設置する、イーサネット用1ポートプリントサーバー「PCRAB mini」を発売した。印刷したいデータを電子メールで、あらかじめPCRAB miniに付けられたアドレス宛てに送信すれば、これに接続しているプリンターで印刷ができるインターネットプリント機能を搭載している（メールサーバーが必要）対応するプロトコルはPX/SPX、NetBEUI、TCP/IP。ウィンドウズ95/98/NT4.0でのピアツーピア印刷にも対応している。価格は19,800円。

URL <http://www.kansai-elec.co.jp/>



本体寸法はW55 x D20 x H52 (mm)

Product コレガがUSBを
イーサネットにつなぐ
変換アダプターを発売

ネットワーク機器を販売するコレガは、USBをイーサネット(10BASE-T)に接続するLANアダプター「corega Ether USB-T」を2月15日に発売した。パソコン本体に組み込むものではなく、外付けのBOX型。このため、取り付けが簡単ですぐに導入できる。また、ケーブルをパソコンに接続するだけで自動認識するプラグアンドプレイに対応。通信状態をモニターできるLEDランプを搭載している。価格は14,800円。

URL <http://www.corega.co.jp/>



コンパクトサイズで取り付けが簡単

Product 日本アイ・ビー・エムが小型
軽量のPDA WorkPad
日本語版を発売

日本アイ・ビー・エムは、3comの日本語版Palm OSを搭載したPDA「WorkPad」を2月23日に発売した。4MバイトのDRAMと2Mバイトのフラッシュメモリーを搭載。単4形アルカリ乾電池2本で約2か月使える寿命やシンプルな操作性がメリット。パソコンとの連携も簡単に行える。左右の入力スペース「左が文字、右が数字」を使う「Graffiti入力」の採用で高認識率を実現したうえ、操作も快適。価格はオープンブライズ。

URL <http://www.ibm.co.jp/>



本体寸法W80 x D18 x H120 (mm) 重量162g

Product NECが
SVGA大画面の
モバイルギア を発売

日本電気は、ウィンドウズCE 2.11搭載のモバイルギア を発売した。ハーフVGAを採用したMC-R510の後継機「MC-R520」(110,000円)のほか、ウィンドウズCE機では初の9.4 SVGAカラー画面(800 x 600ドット)を採用した「MC-R700」(155,000円)を同時発売。約6万5千色のカラー表示に対応。MC-R700はデジタル携帯電話(DoPa/PDC)接続インターフェイスを持たないが、USBポートを内蔵している。

URL <http://www.pc98.nec.co.jp/Product/mg/>



画面両側にワンタッチ起動アイコンを持つSVGA機

Product NTTドコモが
PCカード型の
DoPa対応端末を発売

NTT移動通信網は、直接ノートパソコンのPCMCIAスロットに差し込んで使用するDoPa対応の通信端末「DoPa MAX 2881P」を3月8日発売する。パケット網を利用したデータ通信サービス「DoPa」対応のため、通信速度は最高28.8Kbps。PCカード一体型で接続ケーブルが必要なく、モバイルでの通信に最適。また、LCD表示ランプ内蔵により、電波状態や通信状態が一目でわかる。価格は51,000円。

URL <http://docomo-web.nttdocomo.co.jp/new/contents/98/whatnew101.html>



本体寸法はW58 x D22.5 x H157 (mm)

Product ソニーがメール着信
ランプを搭載した
デスクトップPCを発売

ソニーは、「コミュニケーション」をコンセプトにしたデスクトップPC「バイオシリーズ」を発売した。頻繁に使うソフトをワンタッチで起動する「プログラマブルパワーキー」のほか、ワンタッチで、あるいはタイマーを使って自動でメールを受信し、新着メールがあるとランプを点灯させる機能も搭載。USB端子や、LINK端子に加え、記憶メディアのメモリースティックを直接挿せるスロットやPCカードスロットを標準装備した。

URL <http://www.vaio.sony.co.jp/>



レイアウトフリーで省スペース化を実現

Product エレコムが
16ポート搭載デュアル
スピードハブを発売

エレコムは、接続先の速度に合わせて10Mbpsと100Mbpsを自動的に切り替えるデュアルスピードハブ「LD-MS100WHB16」を発売した。10BASE-T/100BASE-TXポートを16個搭載するほか、5段階までのスタック接続が可能のため、ネットワークの規模に応じてハブの増設が簡単にできる。また、ネットワークを監視して問題があればアドバイスを自動表示するソフト「Navitool」が標準添付される。価格は69,800円。

URL <http://www.elecom-lanec.com/>



本体寸法はW324 x D231 x H55 (mm)

Product メルコが
デュアルスピードハブと
スケルトンUSBハブを発売

メルコは、iMacのデザインに合わせたスケルトンUSBハブ「UHB-M4B (ブルー)」と「UHB-M4C (クリア)」を各8,800円で発売した。USBは4ポート搭載。ケーブルも同一のクリアタイプになっている。また、10Mbpsと100Mbpsを自動的に切り替えるデュアルスピードハブ「LGH10/100-5 (5ポート)」と「LGH10/100-8 (8ポート)」も同時発売。価格は5ポートモデルが13,800円。8ポートモデルが17,800円。

URL <http://www.melcoinc.co.jp/>



ポート単価2,500円を切る低価格を実現

Product 東芝がPentium
Xeon 450MHz搭載
PCサーバーを発売

東芝はPCサーバー「MAGNIAシリーズ」の最上位機種に、インテル社のCPU「Pentium Xeonプロセッサ(450MHz)」を搭載した新ラインアップ「MAGNIA7000 450MHzモデル」を発売した。MAGNIA7000はPentium Xeonプロセッサを最大4台まで搭載できるほか、Ultra2Wide対応の9Gバイトのハードディスクを最大12個108Gバイトまで拡張できる。ラインアップは9種類。価格は195万円から。

URL http://eiplaza.toshiba.co.jp/pcserver/index_j.htm



メインメモリーは最大4Gバイトまで増設できる

Product アイワが
アナログ5ポート搭載の
USB対応TAを発売

アイワは、USB対応のDSU内蔵ターミナルアダプター「TM-ADX1282」を2月21日に発売した。特徴として、アナログポートを5つ搭載したほか、iMacおよびPower Macintosh G3に対応したUSBポート1つを装備した。アナログポートに関してアイワは、電話機やファックスのほかにデジタルCSチューナーや通信対応のテレビゲーム機などを接続するために用意したとしている。価格は42,800円。

URL http://www.aiwa.co.jp/index_j.html



回転式液晶ディスプレイは従来機どおり

Product エー・アイ・ソフトが
ホームページ
録画ソフトを発売

エー・アイ・ソフトは、ホームページ録画ソフト「ウェブワッカー」の最新版「ウェブワッカーEXPRESS Ver.3 for Windows」を4月2日に発売する。前バージョンからの強化点としては、録画機能の高速化のほか、ホームページデータの先読み機能や画像管理機能、翻訳機能などを追加した。ウィンドウズ版のみで価格は8,800円。同社のホームページ上で旧バージョンからのバージョンアップの手続きが行える。

URL <http://www.aisoft.co.jp/>



翻訳機能や画像管理機能などを盛り込んだ

Product トレンドマイクロが
サーバー向け
ウイルス対策ソフトを発売

トレンドマイクロは、電子メールの添付ファイルと、FTPやHTTPでの転送ファイルを監視することでウイルスのネットワークへの侵入と流出を防ぐウイルス対策ソフト「InterScan VirusWall Ver.3 for Windows NT版」を発売した。特徴として、ファイルがユーザーに届く前にウイルスを発見する「ActivPS方式」を採用したほか、未知のマクロウイルスに対応した検索エンジン「MacroTrap」を搭載した。価格は30ユーザーライセンス版が360,000円、100ユーザーライセンス版が750,000円、250ユーザーライセンス版が1,400,000円、無制限ユーザーライセンス版が2,500,000円。追加サーバーライセンスは200,000円。今後UNIX版の発売も予定している。

URL <http://www.trendmicro.co.jp/>

Product ソフトボードが
インターネット分析/管理
ツールの最新版を発売

ソフトボードは、米国WebTrends社との日本における代理店契約を締結し、インターネット分析/管理ツール「Webトレンドプロフェッショナル」を発売した。インターネット/イントラネットサーバーを分析して管理するための機能を統合した製品。WWWサーバーのログ分析、プロキシサーバーのログ分析、リンク分析と品質管理、IPデバイスモニターなどの機能がある。価格は198,000円(1サーバー向け)から。

URL <http://www.softboat.co.jp/product/webtrends/>



アクセス状況を表やグラフでわかりやすく表示

Service

ラビッドサイトが
ホスティングサービスに
オプション機能を追加

ラビッドサイトは、同社のウェブホスティングサービスにアクセスログ解析ツール「Virtual WebTrends Ver.4.0 Windows版」をオプション機能として提供すると発表した。パーソナルプラン(月額4,500円)以上のサービスを契約しているすべてのユーザーに無償で提供する。ユーザーはユーザーのコントロールパネルからVirtual Web Trendsをダウンロードして、自分のパソコンにインストールするだけですぐに利用できる。

URL <http://rapidsite.co.jp/support/webtrends.html>



ラビッドサイトのホームページ

Service

Lycosが
MP3ファイルの
検索サービスを開始

米Lycosは、ノルウェーのFast Search & Transferと提携し、MP3ファイルの検索サービス「MP3 Search」を2月1日に開始した。世界最大級の50万以上のMP3ファイルを検索できる。検索窓にはアーティスト名あるいは曲名を入力。該当するMP3サイトがお勧め度を表す星印が付いた状態で表示される。また、MP3に関するニューストピックやお勧めの曲、一般のミュージックニュースも掲載されている。

URL <http://mp3.lycos.com/>



シンプルな検索画面の「MP3 Search」

Service

携帯電話の文字メッセージ
サービスを利用したホーム
ページ検索サービスを開始

丸紅テレコムは、エヌ・エス・ジェーと携帯電話・PHS向け文字情報サービスの分野で提携し、インターネット技術を利用したサービスを展開すると発表した。第一弾として「携帯電話・PHS向けインターネット情報配信サーバー」の商用サービス化に取り組む。同サーバーは必要な情報のみを抽出する「データ・マイニング」機能を搭載し、ホームページから任意の情報を検索してユーザーへ配信するというもの。ユーザーは既存の電子メールに対応した携帯電話やPHSの文字メッセージ機能を利用してホームページの情報を読む。現在は公開実験中で無料で利用できるが、春にも商用サービス化を行う予定。

URL <http://radio.nsj.co.jp/>

Service

PHS 3社が
通話中移動機能の
向上を発表

NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHS 3社は、移動中の通話で頻繁に発生する通話切断を防止する機能を強化したと発表した。通話品質の向上を目的とするハンドオーバー(通話中移動)機能を強化するため、各社がこれに対する基地局への対処を1月中旬に終了。従来、同一のPHS接続装置に接続されている基地局間で可能だったハンドオーバーは、異なるPHS接続装置間につながる基地局ではできなかった。今回の対処により、移動中の通話も切れにくくなり、特に個々のPHS接続装置がカバーする範囲が狭い場所でも有効になる。DDIポケット電話グループでは、今春までに基地局を全国で13万局以上に増加するという。

URL <http://www.j-plaza.or.jp/ddi-pocket/news/h110127.html>

Technology

関西電力が電力計に
PHSを利用して情報の
送受信を行う実験を発表

関西電力は、電力使用量を集計するメーターにPHSを取り付け、あらゆる情報の送受信を行うネットワークを構築する実験を2000年の春より開始すると発表した。家庭に設置されている電子式の電力計量メーターにPHS端末を取り付け、計量データなどを電柱に設置した基地局を経由して中央の管理センターに伝える。このときケーブルテレビの回線を利用する。センター側からは同じ経路で情報を送信、気象情報などが専用端末を使って見えるようになる。また、インターネット接続や電力使用量などを細かくユーザーに通知するサービスも行う予定。現在はPHSとケーブルテレビ回線を利用した遠隔検針の実験が枚方市で行われており、技術的問題を検証している。

URL <http://www.kepco.co.jp/indexj.htm>

Technology

国内の銀行が多数集結
スーパーキャッシュ
共同実験がスタート

スーパーキャッシュ協議会は、国内の銀行が多数集結して行う電子マネー「スーパーキャッシュ」の共同実験を4月14日から行うと発表した。新宿地域の約1000店舗で利用できるリアル実験とインターネット上のモールで24時間ショッピングができるバーチャル実験を同時に開始する。NTTの技術を利用した商用サービスへの移行に向けて利用頻度調査などを行い、電子マネーの事業内容や技術を検証するのが目的。リアル実験の参加加盟店は新宿タカシマヤ、さくらや、紀伊国屋書店など。利用者は銀行口座から預金を引き出し同額のスーパーキャッシュの発行を受ける。発行は銀行に設置したチャージ機のほか、スーパーキャッシュ対応の公衆電話でも可能。

URL <http://www.s-cash.gr.jp/>

Technology NTTが ICテレホンカードを導入し 対応公衆電話機を発表

NTTは、既存のテレホンカードの偽造問題に対処するため、セキュリティーを強化したICテレホンカードを開発し、同時にICカード公衆電話機を発表した。ICテレホンカードは1枚ごとに番号が埋め込まれ、ICカード公衆電話機からネットワークを通じてセンターでこれを照合する。使い切りのプリペイド型で、3,000円券は10件、1,000円、2,000円券は1件の電話番号を登録できる機能を搭載。運用試験は3月より。

URL <http://info.ntt.co.jp/pdt/>



IrDAを標準装備したICカード公衆電話機

Company 米マイクロソフトと英BTが 携帯端末向けのインター ネットサービスで業務提携

米マイクロソフトと英プリティッシュテレコム(BT)は、携帯電話やページャー、ハンドヘルドPCなどのユーザー向けモバイル関連製品、およびインターネットやイントラネットに関するサービスの開発と提供において業務提携すると2月8日に発表した。メールサービスやカレンダー情報、ウェブコンテンツのカスタマイズなどの一連のオンラインサービスを提供する。マイクロソフトとBTの双方でサービスの開発とマーケティングを行い、BTの子会社Concert Communications Servicesが販売を行う。今春、英国でサービス試験が開始され、来年早々には世界40か国でのサービス開始が予定されている。

URL <http://www.microsoft.com/presspass/features/1999/02-08msbt.htm>

Company 電力系通信会社10社が 共同でギガビット ネットワーク網を構築

東京通信ネットワーク(TTNet)などの電力会社系通信会社10社は、相互の通信設備を接続して次世代の高速通信網を構築し、合わせて新組織を設立する。参加会社はTTNetのほか、北海道総合通信網、東北インテリジェント通信、中部テレコミュニケーション、北陸通信ネットワーク、大阪メディアポート、中国通信ネットワーク、四国情報通信ネットワーク、九州通信ネットワーク、沖縄通信ネットワークで、新組織名は「パワー・ネッツ・ジャパン」。それぞれ自営の光ファイバー通信網を構築しており、高速デジタル伝送サービスなどの相互連携も行っていたが、より高速な次世代通信網を2000年をめどに提供する。

URL <http://www.ttnet.co.jp/service/senyo/chiki/chiki.html>

Company 米ヤフーが ジオシティーズを 買収

米ヤフーは、個人向け無料ホームページ開設サービスを提供する米ジオシティーズの買収に合意したと1月28日に発表した。買収金額は約36億ドルと見られている。ヤフーは検索サービスのほかにニュースや掲示板などのあらゆるコンテンツを提供するポータルサイトを現在展開している。今回のジオシティーズ買収により、ホームページサービスも一括してさらなるサービスの拡充を狙う。

URL <http://www.yahoo.com/docs/pr/release266.html>



ホームページやコンテンツを紹介するジオシティーズのウェブサイト

Contest 世界中の中高校生対象 教材ウェブページ コンテストを日本でも開始

世界中の中高校生を対象とした教材ウェブページコンテストを開催しているThink Questは、4回目の今年、日本からの参加を促進して支援するため、参加ガイド(英文、ルール和訳、CD-ROM)の無料配布を行う。コンテストは2、3名の生徒がチームを組んで、半年から10か月でウェブページを制作、作品のトピックは「科学・数学」、「芸術・文学」などの5部門から選ぶ。応募申し込みは3月31日までで、作品提出締め切りは8月15日。

URL <http://www.thinkquest.gr.jp/>



配布希望者は電子メールかFAXで申し込む

Event 宇治市が インターネットで 町おこしイベントを開催

京都にある宇治商工会議所では、インターネットを利用した町おこしイベント「My Road 宇治」を3月1日から3月31日まで開催する。イベントは宇治の名所に散りばめられた情報を集めて宇治観光を楽しむゲーム「わくわく宇治物語」と宇治茶などの地域色豊かな名産品を直販する「廻線問屋 宇治国屋」で構成。「わくわく宇治物語」は期間中であれば何度でもチャレンジでき、上位入賞者には賞品が贈呈される。

URL <http://myroad.ujicci.or.jp/>



期間限定の宇治町おこしイベント



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp